

## 宇部市の自転車交通に関する当事者意見交換会（第3回）報告

主催： うべ交通まちづくり市民会議

日時： 2025年2月20日（木）午後2:00~4:20

場所： 山口県宇部総合庁舎3階入札室

### 1. 目的：

- ・宇部市の自転車活用推進計画における自転車ネットワーク計画の整備状況2020年~2024年、効果と課題を整理し、計画後半の整備につなげる。
- ・中学校、高校での自転車通学路点検WSの効果と課題を整理し、通学路の改善、ルール啓発と事故防止に役立てる。

### 2. 参加者（20名）

- ・国交省山口河川国道事務所 宇部国道維持出張所 出張所長 上田 雅也
- ・国交省山口河川国道事務所 交通対策課 専門調査官 加田 利克、交通対策係長 金丸 勇一
- ・山口県土木建築部 道路整備課 整備班主査 藤本和宏、路政班主任 吉村健太郎
- ・山口県宇部土木建築事務所 企画調整室 主幹 藤村和平、維持管理第1課 課長 渡壁進
- ・宇部警察署 三藤 雅大、山口県警察本部交通企画課 石津 晃一郎
- ・宇部市土木建設部 道路整備課 課長 中村 伸一（欠席）、鹿嶋 隆志、伊藤英孝
- ・宇部市教育委員会学校教育課 指導主事 植杉 謙太郎
- ・宇部市市民活動課 交通防犯対策係 係長 山切 真一郎
- ・宇部市地球温暖化対策ネットワーク 事務局長 殿河内 誠
- ・NPO うべ環境コミュニティー 理事 浮田 正夫
- ・うべ交通まちづくり市民会議 村上ひとみ、三浦泉彦、兼久威矩、小林立夫、村上寛史

### 3. 次第と質疑、意見交換

1) 開会あいさつ：うべこまち・村上

2) 国の自転車活用推進計画と施策の動き：山口河川国道事務所・金丸

「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」改定（2024年6月）

自転車通行空間の計画的な整備の推進、限られた道路空間の中で、柔軟な再配分や分離を行うことで自転車道や自転車専用通行帯の整備を検討する手法を例示。

自転車専用レーンの整備方法、道路断面の再配分、車道混在の整備が妥当な条件など、参考になった。参加者は国のガイドラインや道路のハードに詳しくない方も多いため、説明は有意義。

3) 宇部市の自転車ネットワーク整備状況：宇部市道路整備課・鹿嶋

- ・過年度整備済箇所 L=8.5km、未施工箇所 L=12.9km

歩道なし路線優先で車道混在の矢羽根ナビマークを整備。

- ・啓発活動目標：自転車が歩行者・クルマと共存できる意識づくり

ドライバーに対して、車道の自転車通行を認識してもらうため。市内自動車学校で「Share the Road」啓発活動。

・車道の自転車走行について、公安委員会の運転免許更新時講習などクルマ運転者に指導してほしい。

#### 4) 県警・宇部警察署から道交法の改正、指導、自転車交通事故の現状・課題等：石津

・自転車のスマホ・酒気帯び罰則強化

・山口県自転車の安全で適正な利用促進条例、2024.4. 1 施行、法令遵守、ヘルメット、自転車保険

・宇部市内では傷者のうち、子ども、若年、高齢者が多く、山口県内に比べて壮年が14%と低い。

(これは壮年の自転車利用が少ない、マイカー依存率が高い影響かもしれない。)

自転車事故での致死率、ヘルメット着用に比べ、非着用は約2倍。

#### 5) 中学校での自転車通学路点検 WS の成果と課題（藤山中、西岐波中、厚南中の事例）：兼久

・2018年から2024年、宇部工業高校、宇部高校、藤山中、西岐波中、厚南中で生徒参加の自転車WS実施。野外調査（実走）とハザードマップづくり。目的は安全意識向上、問題点改善策を考える、学内・地域で共有、持続可能・環境にやさしい交通まちづくり。

・質疑：中学校WSでの自転車ハザードマップはどこにあるのか？ 掲示されているのか？

西岐波中、厚南中共に、学校にあるはず、掲示中か保管しているか否かは確認していない。

参加した生徒は体験を友達に話すなど、自転車走行の学びがひろがるのでは。

活動の動画やマップをSNSでアップするなど、若い世代の参加で発信力を高めたい。（うべこまち）

WSを学校で、生徒参加で実施して頂けるのは大変ありがたい（学校教育課）

#### 6) 左側遵守と事故リスク軽減・自転車レーン意見－自転車アンケートから－：うべこまち・村上 藤山中学校で、自転車ナビマーク整備箇所を通ったことがある生徒の割合が低い、何故か。

⇒ 整備は2022年7月半ば、アンケートと自転車WSは7月終業式前後なので、整備箇所を歩いていない生徒もいた。自動車交通量の多いバス路線（ナビマーク区間）を通らない生徒もいる。

左側通行遵守と車とのヒヤリハットの相関があまりないのは、何故か。

⇒通学の道路環境の影響もありそう。高校生のアンケート2021年実施では、学校の立地・道路条件によって、車とのヒヤリハット割合に差がみられた。（要因を丁寧に分析する必要あり）

#### 7) 参加団体からの話題提供：

○中学校別自転車通学・部活で自転車利用生徒数：学校教育課・植杉

学校の立地条件、地理的環境により利用率に差がある。

○交通死亡事故者数、自転車安全対策・意識に関する取組：市民活動課・山切

令和6(2024)年の交通事故死亡者数が、山口県内で51名（令和5年の35名の1.5倍）と、近年では最も悪い結果。一方、宇部市では令和6年交通事故死亡者数が0名を達成。

自転車での死亡も、山口県内で3名、宇部市で0名。

(☆宇部市での交通死亡事故ゼロはうれしい結果。自転車WS、自転車ブックレット配布やネットワーク整備がそれに貢献できていればうれしい。)

#### 8) 意見交換

○ 小・中学生を対象とした自転車交通安全教室（市民活動課・山切氏）

交通安全対策協議会交通指導員による指導 ⇒小学校3年生以上

- ・自転車に乗れない、乗らない子どもが増えていて、グラウンドでの自転車実走指導をやめる動きあり。
  - ・自転車体験学習はルールや乗り方を学ぶ上で貴重な機会なので、(中学校や高校で自転車通学も増えることから)、できれば実施が望ましいのでは(村上)。
  - ・宇部警察署・市民活動課：自転車に乗る乗らないは家庭・保護者の判断なので、乗り方実習は教室の目的ではない、乗るならルールに従って安全な利用を指導するのが主旨。
- 矢羽根路線をしばしば高齢者が逆走している。走る方向もわかるように、啓発が必要では。
- ルールを知ることが大切。
- 国交省：自転車の通行空間の確保が課題。つなげていくネットワークが大切。
- 車道混在は速度規制が40km以下、日走行台数4000台以下の場合。それ以上は自転車通行帯で。
- 高齢者も増えていて、利用しやすい国道を目指したい。
- 温暖化対策として、自動車マイカーから出るCO2を減らすには、自転車をもっと活用すべき。道路も変えていくことが大切。
- 山口県の自転車活用推進施策は「サイクル県」が主で、観光交流やスポーツに重きがあるようです。観光交流でも、道路のどこを自転車が通行するか明示して安全向上してほしい。通学・通勤や日常の自転車利用も多いので。
- 生活道路における車両の法定最高速度が30km/時になる法改正、施行が2026年9月。自転車交通には良い動きと思われる。
- ・意見交換会で発言しなかったと思いますが、参考まで追記します。：県道琴芝際波線(産業道路)の神原交差点から医学部山大病院で右折北上する道路に宇部市でナビマーク施工した。山大病院へ通院の患者や高齢者も多い歩道の安全・安心を高めるため、自転車が車道を通行しやすく、制限速度を40km/時に下げたらどうか。神原交差点から清水川交差点まで、法定外自転車レーンを整備した際、WSで要望を出し、公安委員会で50km/時を40に下げた経緯もある。(村上)

#### 9) 閉会あいさつ(うべこまち・三浦)

- ・宇部市の自転車利用環境、道路整備やルール啓発について、関係者が集まり、情報共有・意見交換できて、大変有意義でした。
- ・道路整備や計画される担当者の皆さん、自転車ルール啓発される皆さんも、自転車に乗って体験してみると、自転車の魅力や課題がよくわかります。自転車走行会を企画したく、是非参加をお願いします。

#### 4. 資料

- 1) 意見交換会(第3回)ご案内・参加者名簿
- 2) 国交省 自転車ネットワークガイドラインの改訂
- 3) 宇部市の自転車ネットワーク整備状況と啓発活動、Share the Road ちらし
- 4) 県警：自転車に関わる道路交通法改正について、自転車交通事故の発生状況
- 5) 自転車通学路の危険箇所点検ワークショップ：うべこまち
- 6) 左側遵守と事故リスク軽減・自転車レーン意見—自転車アンケートから—：うべこまち
- 7) 中学校別自転車通学・部活で自転車利用生徒数と割合：宇部市学校教育課
- 8) 令和6年の山口県及び宇部市の交通事故死亡事故者数について、自転車の安全対策・意識に関する取組：宇部市市民活動課



宇部日報 1面 2/21/2025

た。21年以降はうそ電話詐欺、SNS型投資詐欺などの知能犯が増加した。生活安全課の伊藤啓二生活安全官は「犯罪を減らす。住みよい社会を築くためには、警察や行政だけでなく、市民の理解と協力が必要」と話した。(岩本遼)

## うべ交通まちづくり市民会議 自転車事故防止へ意見 専用レーン整備、利用啓発など

うべ交通まちづくり市民会議(通称うべこまち、村上ひとみ会長)主催の自転車交通に関する当事者意見交換会は20日、琴芝町1丁目の県総合庁舎で開かれた。警察や行政、市民団体から20人が出席し、自転車の利用環境の改善や事故防止へ意見を交わした。

市自転車ネットワーク計画の整備状況の整理、通学路の改善などを目的に開催。2022年2月に続き、3回目の実施となった。

市道路整備課の鹿嶋隆志課長は、市自転車活用推進計画などについて説明。歩道を通行する自転車が多いとし、歩行者との接触事故防止のためには自転車レーンの整備と啓発が必要だと指摘した。

うべこまちの兼久感矩副会長は、中・高生を対象にしたワークショップ活動を報告。「学校周辺を調査して危険箇所マップを作成した結果、ルール的重要性、正しい走行方法への理解が深まった」と述べ、それぞれの立場で視点が異なるため、価値観の共有を課題に挙げた。

小学生を対象にした自転車体験学習の継続についても議論した。(荒武)

説明を聞く参加者(県総合庁舎で)